

2023
(令和 5年)

夏の星空情報

鹿児島市立科学館 宇宙劇場

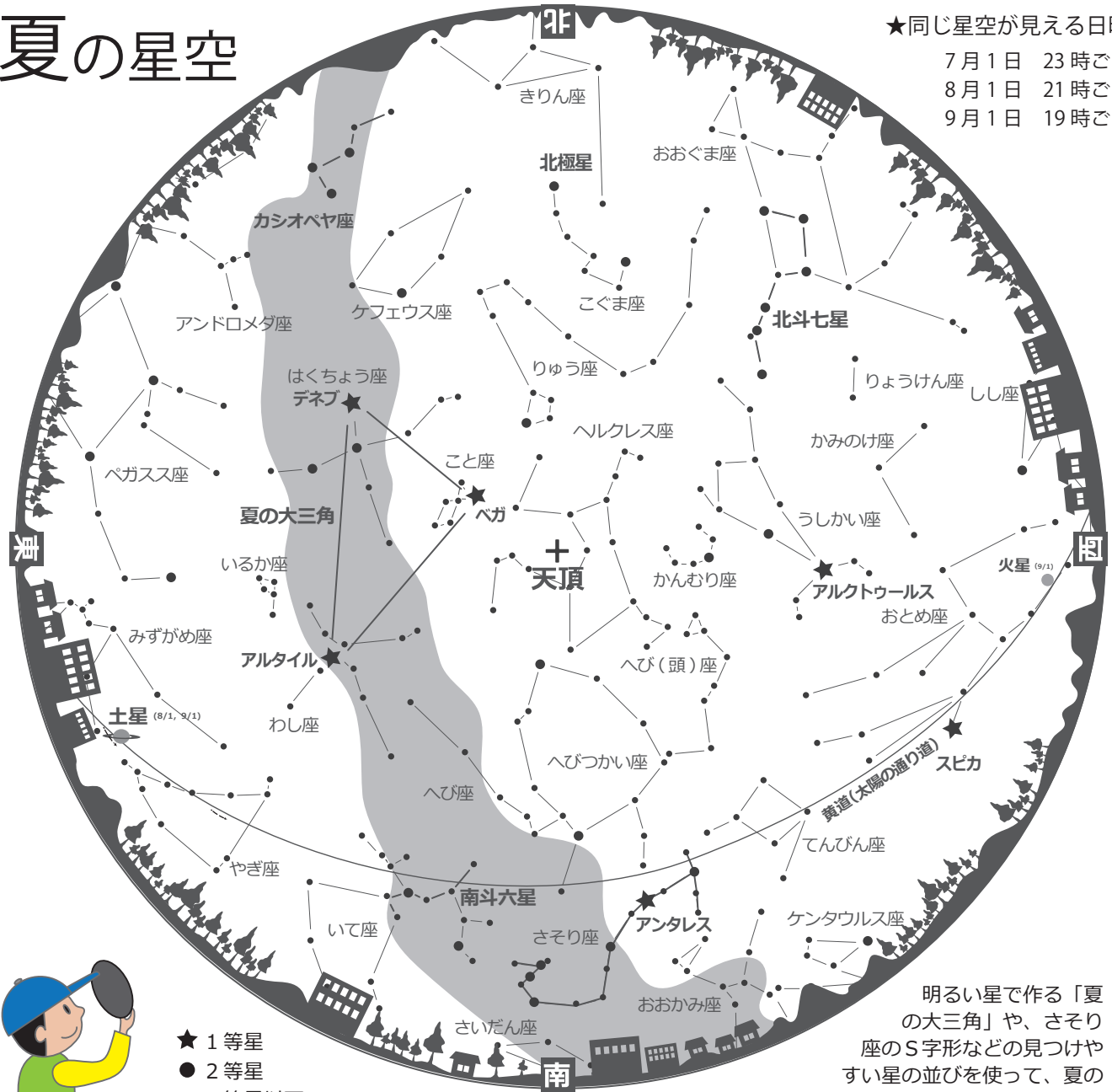
月の形

7月 ●(満月) 3日(月) ●(下弦) 10日(月) ●(新月) 18日(火) ●(上弦) 26日(水)
 8月 ●(満月) 2日(水) ●(下弦) 8日(火) ●(新月) 16日(水) ●(上弦) 24日(木) ●(満月) 31日(木)
 9月 ●(下弦) 7日(木) ●(新月) 15日(金) ●(上弦) 23日(土) ●(満月) 29日(金)

下の図は、夏の季節に鹿児島市で空を見上げたときに見える星空を示したものです。図の中央が、実際の空での頭の真上の“天頂”にあたり、円の周囲が地平線になります。図の東西南北の方位と自分が立っている場所での方位を合わせ、図を頭上にかざすと、星座や星を見つけることができます。

夏の星空

★同じ星空が見える日時
 7月1日 23時ごろ
 8月1日 21時ごろ
 9月1日 19時ごろ



いよいよ暑さも本番を迎える季節です。7月中旬を過ぎると梅雨も明け晴れる日が多くなり、星を見ることができるようになるチャンスも増えます。

さて、この頃の天頂付近では七夕物語の星たちが主役です。こと座の1等星ベガ（織姫星）そして近くには、わし座の1等星アルタイル（彦星）が明るく輝いています。この2つの星と、はくちょう座の1等星デネブを繋げると「夏の三大角」です。さらに、星をきれいに見られるところでは、夏の三大角の背景に白くてぼやっとした雲のように見える「天の川」が見えます。

他にも毎年この時期は、多くの流星群の活動が活発になります。7月中旬頃「みずがめ座δ（デルタ）南流星群」「やぎ座α（アルファ）流星群」、8月中旬頃「ペルセウス座流星群」「はくちょう座κ（カッパ）流星群」「みずがめ座ι（イオタ）北流星群」さらに9月に入ると「9月ペルセウス座ε（エプシロン）流星群」が見頃です。

夕涼みがてら、夏の星座や流星群をお楽しみください。

9月29日(金)「中秋の名月」

日本では旧暦8月15日の月を「中秋の名月」として、団子やサトイモ、ススキなどを供えて眺める風習があります。気候が良く月を丁度良い高さで見られるこの季節は、お月見の絶好の時期です。

また、旧暦9月13日の夜を「十三夜」と呼び、その夜にもお月見をする風習があります。ちなみに今年の十三夜は10月27日です。

なお、中秋の名月が必ずしも満月になるとは限らず、例えば2024年は、9月17日が中秋の名月ですが満月は9月18日です。



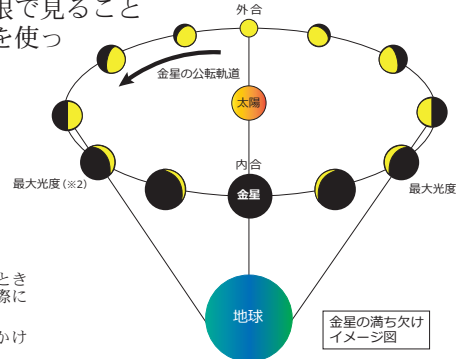
画像：アストロアーツ/ステラナビゲータ

金星が最大光度!

宵の明星(日の入り後の西の空)や明けの明星(日の出前の東の空)として知られる「金星」が7月7日頃に最大光度(マイナス4.7等)を迎えます。金星は、地球よりも内側を公転しているため、太陽に照らされている部分が月の様に満ち欠けしているのようになります。

金星が太陽の向こう側に位置するとき(外合)、太陽に向いている金星の面がほとんど照らされた状態になり、丸く満ちて見えます。しかし地球からの距離が遠くなるため見かけの大きさは小さくなり、明るさも暗くなります。反対に地球から最も近い位置にあるとき(内合)新月のように地球に向いている面がほぼ照らされないため、一時的に暗くなります(※1)。

金星の満ち欠けは、肉眼で見ることではできないので、望遠鏡を使って観察してみてください。また金星が太陽の近くで輝くときは、太陽の光が目に入らないように十分注意しましょう。



※1…惑星が、外合、内合の位置にあるときは、太陽と同じ向きにあるため実際に観察することは難しくなる。
 ※2…天体の明るさが実際あるいは見かけ上、最も明るくなること

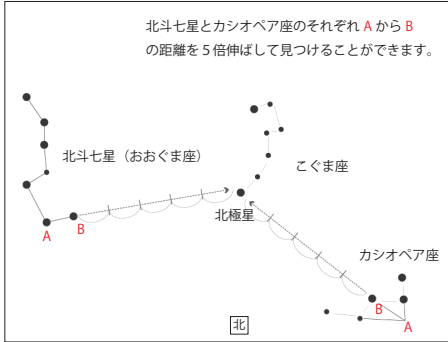
参照：国立天文台 HP「星空情報」

北斗七星とカシオペア座を使って「北極星を見つけよう」

夜空で星や星座を見つけるとき、まず自分がどの方向を向いているかを知ることが大切です。まずは、いつも真北の空で輝いている「北極星」を見つけましょう。北極星が分かれば反対が南、北極星にむかって右手側が東、左手側が西とおおよその方向が分かります。方向が分かると、星座の位置も分かりやすくなり、星空観察がより楽しくなります。

北極星はこぐま座の星で、ほとんど動くことがなく、北の空では北極星を中心に星々が反時計回りに動くように見えます。

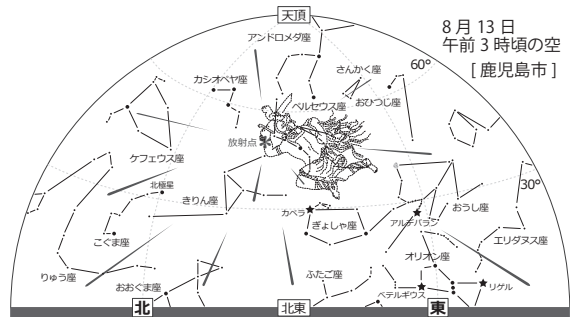
北極星を見つけるには、図のように柄杓のような形をした北斗七星とアルファベットのWの字のような星の並びを持つカシオペア座を使います。季節によっては、どちらかが見えづらくなることもありますが、北極星を挟んで反対方向に位置しているので、見つけやすい方を使い北極星を探してみましょう。



8月13日(日)～14日(月)「ペルセウス座流星群」

毎年活発な活動を見せる三大流星群のひとつ「ペルセウス座流星群」。今年の極大予想は8月13日の17時頃で、13日と14日の夜明け近くに注目するのがおすすめです。各日、下弦を過ぎた月が夜半過ぎから昇りますが、それほど月明かりの影響もなく観察することができます。1時間に30個程度観測できると予想されています。

流星は、放射点から四方八方に流れます。なるべく空を広く見渡せる場所で目が慣れるまで最低15分以上観察してみましょう!



2023年7～9月「おもな天文現象」

7月

- 1日：金星と火星が接近
- 3日：満月
- 7日：月と土星が接近
金星が最大光度 (-4.7等)
下弦
- 12日：月と木星が接近
- 14日：月とプレアデス星団(おうし座)が接近
- 18日：新月
- 19日：月と水星が接近
- 20日：月と金星が接近
- 21日：月と火星が接近
- 25日：月面Xが見える(14時54分頃)
- 26日：上弦
- 27日：水星と金星が接近
- 31日：みずがめ座δ南流星群が見頃
(出現期間7月15日～8月20日)
やぎ座α流星群が見頃
(出現期間7月10日～8月25日)

8月

- 2日：満月
- 3日：月と土星が接近
- 8日：月と木星が接近
下弦
- 10日：月とプレアデス星団(おうし座)が接近
水星が見頃(東方最大離角)
- 13日：ペルセウス座流星群が見頃
(出現期間7月20日～8月20日)
- 16日：新月
- 18日：月と水星が接近
はくちょう座κ流星群が見頃
(出現期間8月8日～8月25日)
- 19日：月と火星が接近
- 21日：みずがめ座ι北流星群が見頃
(出現期間8月11日～8月31日)
- 24日：上弦
- 31日：満月(スーパームーン)

9月

- 4日：月と木星が接近
- 7日：下弦
- 10日：9月ペルセウス座ε流星群が見頃
(出現期間9月5日～9月17日)
- 11日：月とプレセペ星団(かに座)が接近
- 14日：月と水星が接近
- 15日：新月
- 17日：月と火星が接近
- 18日：金星が最大光度(-4.8等)
- 22日：月面Xが見える(13時7分頃)
水星が見頃(西方最大離角)
- 23日：上弦
- 27日：月と土星が接近
- 29日：満月/中秋の名月